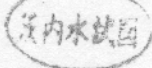


今年のワカサギの生育状態



今年のトロール解禁日（7月21日）におけるワカサギの大きさは霞ヶ浦北浦とも例年になく小型であったことは、既にご承知のとおりです。

これはシラウオにも当てはまり、霞ヶ浦北浦ともワカサギ同様例年になく小型でした。

このことから、この原因としてはワカサギ、シラウオ両方に共通した要因（例えば餌の不足等）によるものではないかと考えています。

続いて、今年の水カサギの生育状態を見るために、図1～2に平成5～8年の霞ヶ浦、北浦の水カサギの体重及び肥満度（痩せ具合を示す指数で、同じ魚で似たような生育段階同士で比較した場合、この値が小さいほど痩せていることを示します。）の推移を示しました。

まず霞ヶ浦についてみてみると、例年8月の体重は解禁日より低い値を示しますが、今年は逆に増加しており、9月では一昨年（6年）、昨年（7年）より1g程度重くなっています。肥満度でも8月、9月とも過去4年間で最も大きい値を示しています。

次に北浦についてみてみると、北浦も霞ヶ浦同様、8月の体重は解禁日より重く、9月では過去4年間で最高の値を示しています。肥満度でも解禁日には今年が最低の値でしたが、8月、9月では6、7年より大きく、5年の値に近づいています。

このように、今年の水カサギの体重及び肥満度は、8～9月において霞ヶ浦北浦ともに6、7年より大きく、順調に生育していることがわかると思います。

この原因としては、湖の水温と関係があるものと考えられます。もともとワカサギは冷水性の魚で、夏場の高水温は苦手であると言われていました。

図3に当試験場棧橋（玉造町高須地先）での6～9月の表面水温の推移を平成5～8年にかけて示しました。

平成6、7年は猛暑であり、湖の表面水温も8月に入ると30℃を超える日が続いていました。

一方、今年は8月上旬に30℃近くになった日も数日ありましたが、全体的には低温傾向にあり、下旬は冷夏であった5年の水温をも下回り、25℃以下になっています。

8月の平均水温でも平成6、7年の30℃に対し、今年は27℃でした。

このことが夏期のワカサギの成長にプラスに作用したものと思われる。

なお解禁日には小型であったシラウオもワカサギ同様順調に生育しています。この原因についても現在検討中です。

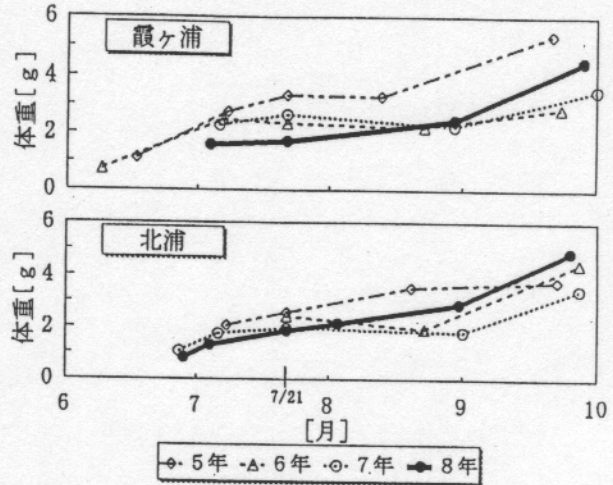


図1 ワカサギの体重の推移

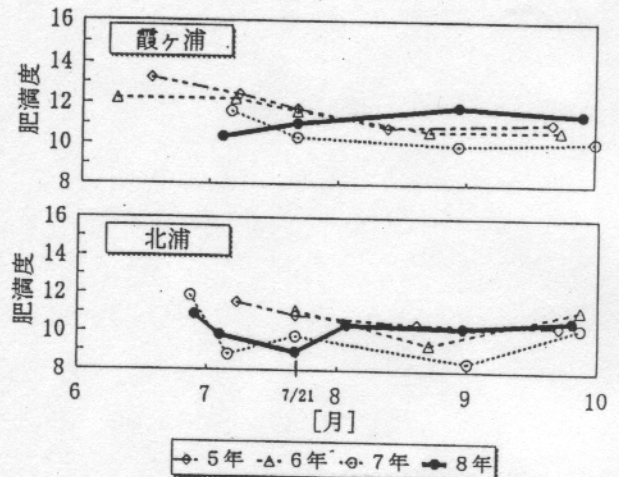


図2 ワカサギの肥満度の推移

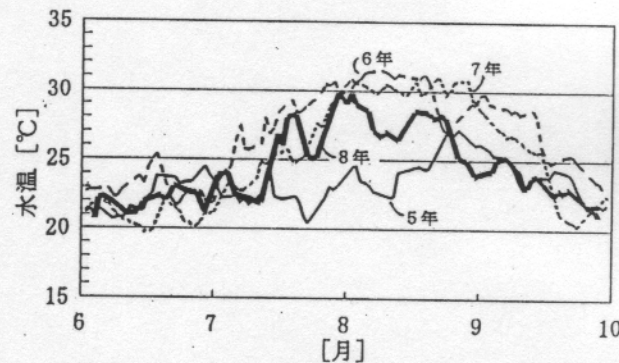


図3 内水面水産試験場棧橋の表面水温の推移

